さかいっこ かけはし通信

No.16　2026.11　　堺市幼児教育センター

5歳児と1年生の交流が各学校園で行われています。こどもたちのほほえましい姿がたくさん見られる交流ですが、その意義について考え、ぜひ5歳児と1年生それぞれに学びがあるものにしたいですね。

交流には、異年齢で関わる意義と教科学習（小学校）や遊び（5歳児）の充実という意義の両方があるね。

異年齢での関わり

5歳児：年長者にあこがれの気持ちをもち、1年生になる期待を膨らませる。
1年生：年下に優しく接する中で、思いやりの気持ちを育み、1年生としての自覚をもつ。

教科学習や遊びの充実

交流することが、教科学習や遊びの充実につながるようにするためには、**就学前施設と小学校の先生方の打ち合わせ**（計画や振り返り）が重要になります。

《打ち合わせのポイント》
- ○これまでの遊びや学習の経験を伝え合う。
- ○5歳児と1年生の**遊びや教科学習のねらい**と指導計画の中での**交流場面の位置付け**を明確にし、共有する。
- ○交流場面について**具体的に（時間・場所・内容・環境構成・保育者や教員の役割等）**話し合う。
- ○交流後はこどもの様子を振り返り、よかった点や課題を整理し、今後に生かす。

例えば「秋の自然を使った遊び」なら

ねらいは「さかいっこ かけはし通信」NO.7を参照
こちらの二次元コードから

（例1）秋の「自然」探しを5歳児と1年生で一緒に行い、つくったものでもう一度交流する

一度会っているからこそ、相手意識が生まれ、その後の活動が深まるよ。



①一緒に秋見付けを楽しむ。（1度目の交流）
②集めた葉っぱや木の実を使って園や学校で遊んだり、作品をつくったりする。
③できた作品をお互いにプレゼントし合ったり、つくったもので一緒に遊んだりする。（2度目の交流）

・お互いの名前が覚えられるように、5歳児と1年生がペアになったり、グループを組んだりする。存分に活動できるように時間の保障をする。
・「一緒に遊んで楽しかった。」「集めたもので○○をつくって、プレゼントしたいな。（もう一度一緒に遊びたいな。）」というこどもの思いを大切にする。

（例2）交流場面：1年生のお店に5歳児を招待する



《1年生》
①秋見付けを楽しむ。
②集めた葉っぱや木の実で遊んだり、作品をつくったりする。
③「○○ランド」（秋の自然物を使ったお店）をつくってみんなで遊ぶ。
④「○○ランド」に5歳児を招待して遊ぶ。（交流場面）

《1年生》
・見付けた秋の自然物を使って、試行錯誤しながら遊びやおもちゃなどをつくる過程を大切にする。
・「○○ランドで遊んで楽しかったので、『園の友達をよんで一緒に遊ぼう』」という思いから、相手意識をもった活動が生まれるようにする。
《5歳児》
・交流することで、園での遊びが広がったり、秋の自然に一層親しんだりできるようにする。

交流の仕方を工夫することで、こどもの学びが深まりますね。